



## 都立高校の職業体験に協力

自衛隊東京地方協力本部江東出張所（所長 江越3海佐）は8月23日及び26日の2日間、墨田区に所在する東京都立橋高等学校2年生の職業体験に協力した。

1日目は、自衛隊の概要や主要装備品についての説明、所長自らの勤務経験を紹介しながら自衛隊の多様な仕事内容について解説した後、市ヶ谷台ツアーに参加して、儀仗広場や市ヶ谷記念館等を見学し、市ヶ谷にまつわる知識を深めることともに、我が国の防衛を司る施設に漂う緊張感を肌で感じていた。

2日目は基本教練体験やロープワーク体験等を行った。ロープワーク体験では担任の先生も一緒に参加しながら最初は苦戦していた「もやい結び」を習得して達成感を感じていた。

駐屯地での研修は中止となり、日程を縮小しての実施となったが、参加した生徒からは「自衛隊の事を深く知る事ができ、また、体を使った多くの体験ができて、とても参考になりました。」との感想が聞かれた。

江東出張所は今後も様々な機会を捉え学校・地域と交流し、自衛隊に対する理解と信頼を深めていくとしている。



## 防災の日に防災意識を高揚

自衛隊東京地方協力本部城東地区隊（隊長 洞口3陸佐）は9月1日、墨田区に所在する吾嬭立花中学校で防災教育を実施した。

これは自衛隊の災害派遣時の活動や、防災技術の習得を通じて生徒達に災害時の対応について学んでもらいたいと学校からの依頼により行ったもので、今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、従来の対面式ではなく、別室で行っている講義などを各教室に設置されたモニターを通して確認するオンライン方式で行った。

教育では当初、城東地区隊長が自衛隊の災害派遣時の行動、災害発生時には「自助・共助・公助」の3つを心掛ける事が重要である事を説明した。引き続き、技術講座として広報官が止血法について展示し、各教室では、生徒たちが映し出される映像を見ながらそれぞれ止血法を練習していた。

後日、江東出張所に届いた生徒たちの感想文では「災害発生時だけでなく、日ごろからどんな準備が必要なのか理解できた。次はモニター越しではなく、自衛官による止血法を直接見たい。」等の感想が寄せられた。

江東出張所は今後も様々な機会を捉え学校・地域と交流を図り自衛隊に対する理解と信頼を深めていくとしている。

